



Title	触媒懇談会々則
Citation	觸媒, 16, 96-103
Issue Date	1959-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/30415
Type	bulletin (article)
File Information	16_P96-103.pdf



[Instructions for use](#)

(午 后)

19. 水性ガス転化反応における酸化鉄触媒について
(九大工・九大生産研)○末永昭夫・清山哲郎・坂井渡
20. プロパンの接触分解における選択性の問題
(東工試) 佐藤真佐樹
21. パラジウム触媒による光学活性水素添加分解
(東北大工) 三井生喜雄○今泉 真
22. SO₂の接触酸化機構
(日本触媒) 原春一・安達昭義○倉田直次

23. 水素ガスと水蒸気との間の重水素の接触交換反応
(都立大理) 千谷利三・堀部純男○坂井端雄
沢井富美男
24. アンモニア合成反応の機構
(北大触研) 堀内寿郎○豊島勇
以 上

3月31日午後6時より幹事会

4月1日午後6時より懇親会

触 媒 懇 談 会 々 則

第1章 総 則

- 第1条 本会を触媒懇談会と称する。
- 第2条 本会は触媒化学の基礎および応用両者の自由討議の場を提供し、両者の有機的結合をはかることによつて、本邦触媒化学の基礎および工業化学の発展に寄与するとともに、触媒化学者、技術者の総意を各方面に反映することを目的とする。
- 第3条 本会の連絡事務所を下記に置く。
関 西 (当分中部より西を含む)
大阪市北区中之島4の8 大阪大学理学部広田研
小 林 康 司 (電 44 3683-9)
関 東 (当分東北を含む)
東京都目黒区大岡山1 東京工業大学新波研
雨 宮 良 三 (電 78-0141 内 320)
北海道
札幌市北8条西5丁目 北海道大学触媒研究所
宮 原 孝四郎 (電4-2181 内953, 871)

第2章 会 員

- 第4条 第1章第2条の趣旨に賛成する者を本会々員とする。
- 第5条 会員中個人を正会員、法人団体を賛助会員とする。
- 第6条 会員は所定の会費を納入するものとする。
正 会 員 1ヶ年 500円
賛助会員 1ヶ年 10,000円

第3章 役 員

- 第7条 本会に下記役員を置く。

顧 問 若干名
編集顧問 若干名
幹 事 若干名

- 第8条 役員は任期は2年とする。

- 第9条 役員は会員の互選による。

- 第10条 幹事は会の運営にあたり、編集顧問は雑誌「触媒」の編集に協力する。

第4章 会 合

- 第11条 本会は毎年1回以上触媒討論会および総会を開催する。

附 則

本会設立当時の役員を下記の通り定める。(順不同敬称略)

顧 問

堀 場 信 吉 井 上 春 成 片 山 正 夫
久 保 田 勉 之 助 紫 田 雄 次 内 田 俊 一

編 集 顧 問

赤 堀 四 郎 (阪 大 理) 広 田 鋼 蔵 (阪 大 理)
堀 内 寿 郎 (北 大 触 研) 古 川 淳 二 (京 大 工)
管 孝 男 (北 大 触 研) 金 子 義 久 (宇 都 宮 大)
児 玉 信 次 郎 (住 友 化 学) 久 保 輝 一 郎 (東 工 大)
桑 田 勉 (東 大 工) 牧 島 象 二 (東 大 工)
三 矢 篤 (立 大 理) 森 川 清 (東 工 大)
森 田 徳 義 (名 大 工) 森 田 義 郎 (早 大 理 工)
永 廻 登 (東 工 大) 長 沢 不 二 男 (三 菱 化 成 研)
岡 本 剛 (北 大 工) 太 田 暢 人 (東 工 試)
大 竹 伝 雄 (阪 大 工) 佐 久 山 滋 (日 触 研)
斯 波 忠 夫 (東 工 大) 下 山 吉 郎 (三 井 化 学)
新 宮 春 男 (京 大 工) 進 藤 益 男 (東 工 大)

竹内豊三郎(富山大)	多羅間公雄(京大工)	門田 憲章(京大工)	上田 隆三(京大理)
千谷 利三(都大理)	外山 修(阪府大工)	B 関東地区	
堤 繁(阪大工)	内田 巖(東工試)	◎雨宮 良三(東工大)	河口 武夫(東学大)
漆原 義之(東大理)	山中 竜雄(科 研)	慶伊 富長(東工大)	荻野 義定(東工試)
志田 正二(東工大)	佐野 慄(名大理)	斎藤 泰和(東大工)	田丸 謙二(横国大)
赤松 秀雄(東大理)	樋口 泉(東北大教養)	安盛 岩雄(東工大)	山崎 恒博(立大理)
佐々木申二(京大理)	小泉 正夫(東北大理)	米田 幸夫(東大工)	井口 洋夫(東大理)

幹 事

A 関西地区

早川 晃雄(阪府大)	川口 信一(阪市大)
窪川 裕(阪府大)	◎小林 康司(阪大理)
大滝 忠照(阪大理)	斎藤弘太郎(名大工)
坂口 雅一(富山大)	寺西士一郎(京大工)

C 北海道地区

小林 晴夫(北大工)△◎宮原孝四郎(北大触研)
佐藤 俊夫(北大触研)
◎ 各地区連絡責任者
△ 会計責任者

編 集 後 記

先づこの「触媒」を全国的に開放して、触媒懇談会の機関誌を代行させることをこころよく承された堀内触媒研究所長、および率先して本輯の編集計画立案を引きうけられた東京工大斯波研究室の方々を始めとする関東地区幹事の方々に衷心の感謝を申し上げます。又、多忙中にもかかわらず、吾々の性急な督促をこころよく入れて原稿を寄せられた執筆者各位に厚くお礼申し上げます。お蔭で本輯を予定通り33年度内に印刷に廻し、ここに各位にお届けすることが出来ました。実務に当つた私共の望外の喜びであります。さてこの欄をかりて、これまでの触媒懇談会の経過を簡単に報告しておきます。わが国唯一の触媒研究者の集会として計画された触媒討論会が、毎年1回札幌・東京・京都の持廻りで開かれ、年々盛会となつて昨年7月の札幌の集会で第7回目を数えるに至りました。その間触媒研究者が単に年1回の討論会に集るだけでなく、民主的な組織に結集してはどうかと云う考えが生れ、第7回の討論会に機熟して参会者一同で触媒懇談会の発足が確認され、年来の懸案であつたわが国触媒研究の基礎と応用との緊密な連繋に向つて大きな一步を踏み出す事になつた次第であります。正式な会員募集を昨年10月に入つて始めてから現在迄に既に正会員70余名、賛助会員4件の加入を得たことから、本会に寄せられる関係者の期待の程をうかがうことが出来ると思います。この御期待にこたえて私共大いに微力を尽す積りでおりますが、今後も「触媒」の編集方針・内容、更には触媒懇談会の在り方について御意見御希望など頂くことが出来れば、私共大いに参考にし、又会運営の窓口にもなることが出来て非常に幸いとす次第であります。

(昭和34年2月23日 宮原 記)